

全国学力学習状況調査の結果について

4月に6年生に実施した「全国学力学習状況調査」について、牛牧小学校では「どんな観点に十分に力がついていて、またどんな観点に弱さがあるのか」を考察しました。

国語において

- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する
- 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う
- ◎目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する
- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える
- ▲目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える
- <◎は県・全国の平均回答率よりも5ポイント近く高かった項目>

牛牧小学校の児童の国語の力は、県の平均とほぼ等しいものでした。漢字や言葉の意味など、基礎的・基本的な事柄の定着という点では概ねできていると思われます。理科をはじめとした教科の学習の中で、「根拠を明らかにして自分の考えを書く」ことに繰り返し取り組んできたため、「目的に応じて文章や図表を結び付けて必要な情報を見付ける。」という点が大きくアップしています。その一方で、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。」という点に弱さがあります。また、漢字を使って書き直す問題に「無回答」が多いのも気になります。日頃から、学習した漢字を使って少し長い文を書く習慣を付けることで、こうした「無回答」は減らせるはずです。

これまで、国語の時間で学習課題について「根拠を明らかにして自分の考えを記述する」活動は継続してきましたが、今後は少し長い文を読んで要旨を簡潔にまとめたり、少し長い文章を書いたりするような活動に力を入れていきたいと考えます。一度読んだだけでは「少し分かりづらいなあ」と感じて簡単にあきらめてしまうのではなく、繰り返し読んで途中まででも自分の考えを書けるような活動を意図的に仕組んでいきます。

算数において

- 条件に合う時刻を求めることができる
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる
- 棒グラフから、数量を読み取ることができる
- ◎データを二次元の表に分類整理することができる
- ◎集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる
- ▲速さを求める除法の式と商の意味を理解している
- <◎は県・全国の平均回答率よりも5ポイント近く高かった項目>

牛牧小学校の児童の算数は県平均をやや上回り、基礎的・基本的な事柄の定着や活用という点では概ねできていると思われます。データを二次元の表に分類整理したり、どのようなデータを集めるべきかを判断する点では大きく上回っています。算数に限らず理科の学習で大切にして繰り返し取り組んできたことが力となっていることが分かります。しかし国語と同様で、比較的長文の問題に対しての無回答が多いのが気になります。また、判断の理由を記述する部分についての無回答も多いのが気になります。

これまで算数だけでなくいろいろな教科において、学習課題に対する自分の考え方をノートに記述し、仲間と伝え合う活動を通して、より合理的な見方や考え方を定着させていくような学習活動を続けてきました。その結果が成果となって現れ、「根拠を明確にして自分の考えを文章で書く(伝える)こと」は出来るようになりつつあります。しかし、問題から立式することは出来ても、逆に式が何を表しているのかを考えて言葉で説明することに苦手意識をもっている児童が多いようです。(こういった『式を読む』問題には苦手意識をもつ児童が多いのは、牛牧小学校だけの傾向ではありません。多くの学校でも課題となっています。)また、領域によって習熟の度合いにばらつきがあります。今後も、基礎的・基本的な事柄の定着を図るような習熟の時間の充実と同時に、身に付けた「見方や考え方」を活用して、多様な考えを数学用語を正しく使って説明していくような活動に力を入れていきます。